遠野まごころネット：個人参加ボランティア（体育館組？日帰りもん）ニュース

ゆりもう

（5/17（火）の宿泊：220人、活動：293人）

2011.5.17(火)
第20号
編集責任：別府

編集担当者　辻・増田・富松・森田・小迫・別府・荒木

5/18(水) 天気 晴　気温 10～20℃　降水確率 0%

嬉しい悲鳴―ボランティア急増―

「まごころネット」に個人ボランティアの申し込みが急増しています。事務局も嬉しい悲鳴を上げています。

連休のデーターと比較してみました。

月　日	宿泊者（人）	活動者（人）
5月3日	450	576
4日	365	345
5日	227	315
～	～	～
14日	131	209
15日	162	216
16日	174	258
17日	220	293
18日（予）	255	312

3日がピークでしたが、本日から宿泊者も200人を超え、活動者も300人台になろうとしています。

東北新幹線の帰路の半額実施（14日から）の影響等も考えられますが、何よりも被災者支援の輪が確実に広がりを見せていることではないのでしょうか。

一方この事で、体育館の寝袋スペースが大変狭くなり宿泊者には大変ご不自をお掛けしますが、避難所の被災者の皆さん方も戻れる日まで頑張っておられます。何卒ご理解をお願いします。

炊き出し美味しかったです！

5月15日（日）午後5時半から福祉センター前広場で当総合福祉センター付近の四人の主婦の皆様方が、勿体無くも私達ボランティアの為に炊き出しをして頂ました。

弁当、ひっつみ汁各200食、他におにぎり、デザートとまごころ入りの美味しい炊き出しに当日の活動者全員が舌鼓を打ち完食しました。後で、こそっとこの資金提供はあの大女優宮本信子さんと聞き驚きました。改めて、私達も支えてくれている人達がいるのだということを再認識しました。

太平洋の裏側から届く千羽鶴

3.11当日、私は旅行でペルーにいました。テレビから目に入ってくる津波の映像を見て涙が流れる私をペルー人の友人が優しく抱きしめてくれました。「日本に向けて何か行動しよう」と小学校教師のペルー人の友人の言葉をきっかけに、私は小学校で千羽鶴を作ることにしました。全校生徒を前に、地震のことを話し、250名の生徒と共に700羽の鶴を作りました。生徒一人ひとりが太平洋の反対側に位置する日本への思いを感じながら、一つひとつの鶴に糸を通しました。700羽をつなぎ合わせ、完成した鶴を見せに再び学校を訪れた日、家庭に帰った生徒達は自主的に家族に折り方を教え、残りの300羽の折り鶴を私に届けてくれました。「これでミル（スペイン語で千という意味）になったよ。」と嬉しそうな話。生徒達が作った千羽鶴は現在、ペルーの日系文化会館に飾られています。ペルーから日本へ、千羽鶴は太平洋を越えて思いを届けます。

（森田晃世）

音楽のプレゼント♪

クノキ・ファミリー。父カナダ人、母日本人9男5女の子供。日本各地でボランティア活動し、傷ついた心を癒し、励ましあらゆる困難な状況に直面している人々の人生を少しでも役に立つことが出来るように全力を尽したいと望んでいると伺いました。

避難所の前にいこいの場所として設立された「まごころ広場」にて歌とギター演奏をされました。この広場の代表白澤さんによりますと、被災者の方々のはじめて以来の笑い声が聞こえたと喜んでいました。（文責 増田一枝）

5/18(水)ボランティアミーティングはPM5:30～@体育館

まごころ種　募集　くわしくはHPへ